

会 議 記 録

会 議 名	令和 6 年度第 1 回魅力ある屋島再生協議会
開 催 日 時	令和 6 年 7 月 2 4 日(水) 1 4 時 0 0 分～1 5 時 2 0 分
開 催 場 所	高松市役所 1 3 階大会議室
議 題	(1) 役員の選出について (2) 会則の改正について (3) 令和 5 年度の事業報告及び収支決算について (4) 令和 6 年度の事業計画（案）について (5) 魅力ある屋島再生協議会設立からの振り返りと今後の課題 【その他】 屋島山上・山麓間のアクセス検討 やしまーる 2 周年についてお知らせ
公 開 の 区 分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	佃会長、岩佐副会長、佐々木監事、古川監事、稲井委員、岡委員、小川委員（同席：渡邊様）、河田委員、佐々木委員、次田委員、寺川委員（代理：上田様）、中井委員、中尾委員、原委員、福島委員、福家委員、吉田委員
傍 聴 者	9 人
担 当 課 及 び 連 絡 先	観光交流課観光エリア振興室 839-2417

審議経過及び審議結果

議事に先立ち、今年度新たに就任した委員の紹介を行った。

次の議題について協議し、下記の結果となった。

議事(1) 役員の選出について

・魅力ある屋島再生協議会会則第 5 条第 2 項の規定に基づき、委員の互選により会長を選出した。また、魅力ある屋島再生協議会会則第 5 条第 3 項の規定に基づき、会長の指名により副会長及び監事を選出した。

会長 佃 昌道

副会長 岩佐 武彦

監事 佐々木 正隆

監事 古川 康造

議事(2) 会則の改正について ※資料 1

・本協議会の会則改正（案）を事務局から説明。委員からの質疑・意見等はなく、承認された。

審議経過及び審議結果

議事（３） 令和５年度の事業報告及び収支決算について ※資料２，３

・令和５年度事業報告について、事務局から報告し、収支決算の監査結果について、監事から報告した。委員からの質疑・意見等はなく、承認された。

議事（４） 令和６年度の事業計画（案）について ※資料４，５

・令和６年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、事務局から説明し、承認された。

議事（５） 魅力ある屋島再生協議会設立からの振り返りと今後の課題 ※資料６

・事務局から報告。

【質疑・意見等】

■委員

先日伊勢志摩で開催された国立公園関係都市協議会に出席した。横山展望台でも屋島と同様、駐車場の問題があるが、伊勢志摩では市と環境省それぞれが作った駐車場が上手く連携しながら取り組んでいるということ踏まえると、屋島の駐車場問題も当協議会で民間の方の意見を聞きながら国と県と一緒にやっていく必要があると思った。屋島の山上地区は国の史跡天然記念物になっているため現状変更が難しい場所になっている。とはいえ、やしまーるの整備もできているので、国立公園指定 100 周年に向けて駐車場・アクセス・廃屋あたりの問題について皆様の意見を頂きたい。

■委員

屋島寺・屋島山上観光協会に、車でどうやったら屋島山上へ行けるのかという問い合わせが多い。昔は屋島ドライブウェイという大きな看板があったが、今はなくなり、わかりにくい。もう少し屋島の入り口らしい整備をするという話があったかと思うが、今後何か計画があるのか市に聞きたい。

→事務局（回答）

特に市外からの観光客に向けて、屋島の麓からの案内は必要と考えている。ただ、今年度は山上のトイレのリニューアル、駐車場の照明の工事を計画しているため入り口部分の整備は今年度計画されていない。今年度以降、必要な受け入れ環境整備に取り組むため予算化できるよう努めて参りたい。

■委員

屋島の入込客数（観光客）のうち、県内・県外人数の比率をとっているのか。単に入込客数が増えることで満足するのか、県外の観光客が少ないから増やそうと今後動くのか、人数の到達点をどうみたらいいのかを聞きたい。

→事務局（回答）

来場者の属性についての調査はできていない。しかし、近年 AI カメラを活用した取組を行っており、車のナンバーの読み取りの可能性などの実証実験は行ってきた。今後の屋島のアクセス検討をすすめていく過程でもどこから来たのか、屋島の次にどこに

審議経過及び審議結果

向かうのか等の観光客の属性を把握していく必要はあると考えている。そのデータを次なる観光施策に生かしていきたいと思っている。

■委員

やしまーるを拠点施設として作られているが、位置的な問題もあり、実際はその機能を果たせていない。駐車場近辺に案内所をつくる予定となっていると資料に書かれているが、どのような計画になっているのか教えてほしい。

→事務局（回答）

案内所を作る計画はない。やしまーるがビジターセンターとしての役割を担ってくれている。一例をあげると、源平の史跡を案内するようなアプリケーションを作成している。

今後の課題として、山上から麓まで案内するような案内板の整備（多言語対応を含む）を進める必要があると認識している。

■委員

瀬戸内海国立公園 90 周年を迎えたが、環境省としても屋島は初期から国立公園に指定されている重要な場所であると認識しているので、一層活性化できるようにしていきたいと思っている。

環境省の方では北嶺の方を整備しており、昨年度展望台の整備が全て完了した。また、トイレ・休憩所の整備も終わった。今年度に多言語対応を含めた標識類を整備することで一連の整備は終わりと考えている。その後はソフト面を進めていきたいと思っているので、皆さんと一緒に考えていけたらと思っている。

■委員

南嶺の方で廃屋・ケーブル跡地があるが、屋島活性化基本構想の個別課題の中でも廃屋撤去後の更地利活用が問題提起されている。現在の検討状況の情報提供をお願いしたい。また、登山道で、ロープを頼りに崖を上っていた登山者のロープが切断し、落ちて軽い怪我を負った。現在個人等がルートを開設し、登山道が乱立している状態で、国有林野の土地管理者としては頭を悩ませているところ。可能な限り手を入れず活用できて、実現性のある登山道として整備することを念頭に、関係する行政機関と連携して適切に対応していくことが基本構想の個別課題に併記されていると思う。高松市が中心となって登山道の整備や既存のルール作りについて枠組み作りを検討してほしいと思っている。

→事務局（回答）

廃屋の利活用については、やしまーるの再整備が、もともと廃屋があった場所に観光地としてふさわしい景観を取り戻した一例である。しかし、まだ現存する廃屋については土地・建物に所有権の残る物件であるため解決が難しい。ただ、安全性・景観のことを考えると適切な管理が今後求められるとも考えており、関係者の皆様と検討して参りたいと思っている。

審議経過及び審議結果

■委員

観光立国推進基本計画にある、ユニバーサルツーリズムに取り組んでいる。直轄事業として、今年車いすユーザーの訪日外国人観光客を想定したツアーの受託者を募集しており、その中でモデルコースとして屋島山上から瀬戸内を望むというコースも設けている。

■委員

屋島に観光客が県内・県外どちらから来るかを知ることが大事だと思う。県内からは車で来ると思うが、県外の観光客を狙うとなればアクセスの課題が屋島にはあると思う。

BtoC の部分については SNS を活用・48 のキャンペーン等、宣伝・広告物もあるので新しい情報を頂ければと思う。

個人的に思うところが、やしまーるなどの宣伝が弱いと思う。旅行会社はコミッションがないと宣伝に積極的でない傾向がある。父母ヶ浜もコミッションがないが、SNS の力で流行っているので、そのあたりの使い分けをしていった方がより注目を浴びると思う。いろんな形で情報発信をしていった方が上手くいくと思う。

■委員

ピーク時の駐車場のキャパシティを把握する必要があると思う。何人来ることを想定して今の駐車場を運営しているのかの分析ができていれば、もう少しシャトルバスで効率よく運べるようになると思う。今はバスしか公共交通の手段がないが、道路が混雑し、渋滞するとバスも山上に行けなくなるという問題が去年も発生したが、まだ解決策が見えていない。そこを解決していかなければピーク時の観光客をさばけない。協力できるところは協力していきたい。

個人的に思うところが、香川の SNS・YouTube を見ても屋島がほとんど出てこない。SNS の発信力がある人にもっと PR をする必要があるのでは。また、屋島といえば外から見た屋島の形を取り上げられがちだが、屋島に来てほしいのであれば、屋島から見た景色を PR するべきではないか。

■委員

史跡・国立公園だからできないということが多い。関係制度上、何ができて、何ができないかを取りまとめたものがほしい。逆に史跡になることのメリットは何かあるのか。

→委員（回答）

メリットとしては、史跡を整備する時に文化庁から補助金がもらえる、公有地化をする場合に国から補助がもらえる、史跡に限らず文化財を活用するメニューとして案内板を作ることができるといった点がある。関係制度の整理は事務局の方でしているが、十分皆様と共有できていないのが課題だと思っているので、ぜひ整理をしたうえで共有したいと思っている。

■委員

オーバーツーリズムが現在観光業界で問題になっているため、ぜひ認識を持った上で計画

審議経過及び審議結果

を作ってほしい。

■ 委員

・自動運転バスが実現すれば、自動運転バスに乗りたい人によって観光客が増えるのではないかと思う。しかし、駐車場問題もあるので、いずれは空中で輸送することも視野に入れたほうがいいのではと思う。

・ただ観光客の人数が 70 万人に到達すればいいのか。お遍路・水族館を目的とした観光客を除いた、純粋に屋島に来た観光客の数を確認する必要があるのではないかと思う。

■ 委員

屋島という場所がどういう場所かというアイデンティティが曖昧になっているのではないかと思う。コロナ禍で登山を始める人が増えたが、屋島は本格的な装備が必要な場所ではないが、かといって軽いハイキングで行くような場所でもない。どういう人に対して屋島の魅力を訴求するのかが分かりにくい。どういうターゲットがふさわしいのか、ターゲットに合わせて上手く紹介してあげるにはどうしたらいいのかというのを工夫できたらいい。

■ 委員

・観光ガイドで説明をされていて困るのが、廃屋の問題。
・スカイウェイの側溝に落ち葉がたまっているが、誰が掃除をするのか。モニュメント等物を作った時の維持管理を誰がするのかという仕組み作りをうまくしていけたら助かる。できる人がやっていけたらと思っているので、協力できるところはしていきたい。

■ 委員

・ソフト面の開発（特にウォーキングなどの自然とのふれあい活動）や観光的な商品解決などをやってほしい。
・次のターゲットは碁五郎の撤去だと思う。ぜひ何とかしてもらいたい。

■ 委員

イノシシが今年になって増えてきている。対策を県も一緒になって考えていかなければいけないと思っている。

■ 委員

・瀬戸芸で、屋島を含めた内陸部にも人を引っ張っていきたいと考えている。その際に交通アクセス課題は取り組んでいかなければならない。
・オルネや空港に外国向けの観光案内所がある。屋島をどうご案内するかを検討していかなければならない。県も屋島の情報発信を県外にしていきたい。

■ 委員

屋島は開発の制限がかかるとの話があったが、逆に史跡天然記念物やジオパークという視点で売りにしてみてもどうか。屋島を来てもらう目的に景観・史跡をいかにアピールしていくかが重要だと思う。

審議経過及び審議結果

■委員（まとめ）

ぜひ委員の皆様で情報を集めて、協議会や事務局に情報を提出してほしい。子供から年寄りまでに愛される屋島になるため何ができるかを検討できたらと思っている。

3 その他

■事務局

屋島山上・山麓間のアクセス検討について

本市では、屋島の実情に合った交通手段の導入について、その基礎的資料を検討している。この中で、訪問者の属性などのデータをアンケート等で集め、交通状況の課題の洗い出しを行っている。今年度中にとりまとめ、その資料をもとに当協議会でも議論いただけたらと思っている。

昨年度自動運転バス実証調査を行った。今年度は需要予測・運行リスクアセスメント調査などを進め、関係者で組織する協議体で合意形成をはかっていきたい。ゆくゆくはレベル4での実装を目指している。

夏休み期間中に屋島の利用者アンケートを実施しようと思っている。アンケートの内容でお気づきの点があったら事務局までご意見をお願いしたい。

→意見・質問なし

やしまーる2周年についてお知らせ

やしまーる館長より2周年開催のお知らせ

■委員（まとめ）

データがほしいとの意見が多くあったが、事務局の方でデータをもらったり配布したりということをお願いしたい。

など

—以上で審議終了—